

那覇市長 宛		令和 7 年 9 月 25 日	
		団体名 特定非営利活動法人あごらびあ	
		代表者 嘉手苅 教吉	
		担当者 兼濱 克弥	
「なは市民活動支援事業」			
中間報告書			
令和7年6月13日付け、那覇市指令市ま第1081号で交付決定の通知を受けた当該事業について、現時点での進捗を下記のとおり報告します。また、市ホームページへの掲載を承認し、中間報告会で他団体とも内容を共有します。			
1.事業名	精神障害当事者とともに築く福祉教育プロジェクト		
2.実施内容	(何をいつ実施したか(事務局会議は除く)、対象者や実施場所など) ・6月4日 真和志中学校にて、1学年生徒(3クラス108名)を対象とした「キャリア教育(総合学習)」へ「障害福祉」の講話を行う。 ・7月3日 劇団所属俳優および精神障害当事者と「演劇授業」の打ち合わせ ・7月14日 真和志中学校にて 校長先生、繁多川公民館スタッフと「演劇授業」について説明 ・7月23日 首里中学校にて教頭先生と打ち合わせ ← 今年度開催は厳しいとのこと(次年度に向けて) 真和志高校 教頭先生へプロジェクト概要資料を渡す。 ・8月22日 真和志小学校 教頭先生へプロジェクト概要資料を渡す。 ・9月17日 真和志中学校1学年生徒10名が、NPO法人あごらびあ「就労支援事業所あ・ん」へ来所交流。 ・9月25日 劇団所属俳優および精神障害当事者と「演劇授業」の打ち合わせ		
3.事業を一言で表現すると	(例：生活困窮世帯に食糧を配布することで、対象者が安定して食事が取れるように支援する。) 「精神障害者(心の病)の福祉教育」を構築することで <u>メンタルヘルスに関連した社会課題が減少し、精神障害当事者が自分らしさを取り戻す。</u>		
4.これまでの活動の振り返り	【良かった点】 当事者が企画段階から主体的に参加し、当事者の視点や経験を活かすことで、よりリアルで深い学びを共有できた。生徒が「障害者支援現場」に来所し、当事者と直接交流できたことで相互理解が深まった。教科書だけでは学べない、当事者の生の声を聞くことができた。	【改善点・今後につなげる点】 活動予定の学校のスケジュール調整が上手いかず、次年度開催に向ける形となった。	

5.今後の活動予定 (事業期間内又はすでに終了した団体については次の予定)	(何をいつ実施するか、対象者や実施場所、など) 11月～(10月17日打ち合わせ予定) 真和志中学校 1 学年を対象に「心の病を学ぶ演劇授業」を開催 日程調整中 真和志小学校 次年度以降の開催学校について ・首里中学校 ・真和志高校
6.活動写真 (簡単な説明文を記入)	 (6/4 真和志中学校 1 年生 総合学習 体育館にて)  (6/4 同左)  (9/17 真和志中学校 1 年生 総合学習 就労支援あ・んにて交流会)  (9/17 同左)
7.今回の達成目標 (当初の事業計画書に記載した目標)	・事業参画人数／延べ 2 0 0 名 ・振り返りシート回収率／90% ・事後アンケートにて「精神障害者への理解が深まった」と回答した割合／70%以上 ・当事者が語る機会を通じて自己肯定感の向上を実感したと回答した割合／50%以上
8.現時点の目標達成度 (例：60%達成)	現時点で「心の病を学ぶ演劇授業」未実施のため10%